

PICK UP EVENT



※フラッシュ撮影不可。天候により雨戸開放がない場合もあります。あらかじめご了承ください。

無鄰菴会議の日

2023年4月21日(金) 13:00～14:30

¥3,500 (入場料・喫茶料金含む)

1903年4月21日、日本の近代を築いた大物政治家4名が、無鄰菴の洋館で日露戦争前夜の外交方針を話しあう歴史的な会議を行いました。会議に参加したメンバーは伊藤博文、小村寿太郎、桂太郎、そして無鄰菴の施主山縣有朋。この日は毎年の恒例、その際に使われた洋館の非公開スペースを公開します。写真撮影もOK！通常は内部の保存のために閉鎖している窓を開け、往時の洋館の雰囲気を感じていただきます。陽光で輝く壁一面の金碧障壁画が、明治さながらに魅了します。無鄰菴の主任学芸員 重岡伸泰による「無鄰菴を有朋がどう使ったか？—集う人々と無鄰菴会議」の解説付き！明治を満喫した後は、母屋でごゆっくり喫茶タイムをお過ごしください。

おりんが響くせせらぎの日本庭園 ～煎茶とともに～

2023年7月15日(土)・16日(日) 8:00～9:00

¥4,000

京都の夏、涼やかな流れがせせらぐ日本庭園で冷たい煎茶をいただきながら、おりんの音色に癒される。そんな時間を過ごしたことがありますか？極上の体験が、すぐそこに。毎年恒例となりました無鄰菴の早朝開場が今年も登場です。代々、祇園祭の山鉾で使われる囃子鉦も制作されてきた南條工房様のご協力のもと、おりん奏者の村木悦子さんによる演奏は、非日常へと心を導いてくれます。旅のリフレッシュに、特別な朝を無鄰菴で過ごしませんか？日本庭園の見方の解説付きです。



夏の早朝特別開場

〈無鄰菴とは〉



【造営】1896年 【施主】山縣有朋 作庭：七代目小川治兵衛
【特徴】東山を借景にした庭が至極美しい。近代日本庭園の傑作。明治の京都、庭、南禅寺界隈の静けさを味わう絶好の場所。琵琶湖疏水のせせらぎを180度味わえる庭園カフェもオープン。季節のイベント実施中！

- ・無鄰菴は南禅寺界隈別荘群の中でも最初にできた別荘庭園。
- ・東西に延びる敷地の西側に母屋・洋館・茶室があり、庭越しに東山の借景を望めます。
- ・琵琶湖疏水を活かした浅く躍動的な流れと、広々とした明るい芝生の空間が特徴。
- ・モミジ林にはこの上なく美しい苔のじゅうたんが広がります。

—人数限定入場について

- ・無鄰菴へのご来場は時間毎の入場制(事前予約優先)とさせていただきます。
- ・1時間ごと、毎時0分にご入場いただけます。滞在時間に制限はございません。
- ・当日お越しいただき、入場枠に空きがない場合はご入場いただけませんので事前のご予約をおすすめいたします。
- ・10分間無料ガイドが基本入場料に含まれます。

無鄰菴では、文化財である施設を今後も良い状態で保存・公開していくため、引き続き入場人数を限定した公開とさせていただきます。何卒ご理解くださいますようお願い申し上げます。

その他、行政などの指示により、臨時閉場とさせていただきます場合がございます。開場状況につきましては、無鄰菴公式HPでご確認いただくか、施設にお問い合わせくださいませ。

—ご予約方法

- ・無鄰菴公式サイトから受付中。「無鄰菴予約」で検索。
<https://murin-an.jp/garden-reservation/>
- ・インターネットをご利用にならない方は、お電話075-771-3909より受付しております。スムーズなお手続きのため、できるだけ公式サイトからお申込いただけますとありがたく存じます。

【ご留意】

- ・施設保存のため、見学ルートはスタッフの案内に従ってください。
- ・場内での撮影については、事前の申請をお願いしております。撮影をご希望の方は、管理事務所までお問い合わせくださいませ。

お電話
075-771-3909

無鄰菴管理事務所 Murin-an Administrative Office
〒606-8437 京都市左京区南禅寺草川町31番地
31Nanzenji Kusagawa-cho, Sakyo-ku, Kyoto 606-8437

無鄰菴指定管理者 植彌加藤造園株式会社
Ueyakato Landscape

京都市
CITY OF KYOTO

design: Masae Kobayashi

庭園メンバーズ ニュースレター会員

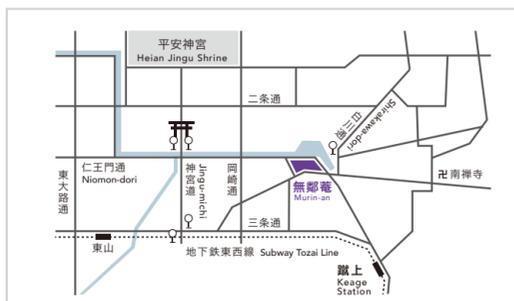
毎月、庭園の情報をお知らせするニュースレターを配信。限定イベントも。

登録受付中！

入会費・年会費無料

参加施設 無鄰菴、岩倉具視幽樓旧宅、慶沢園、梶尾山 高山寺、三溪園

申込方法 無鄰菴管理事務所までお電話または無鄰菴ウェブサイトよりお申込。



—交通のご案内

- 京都市営地下鉄東西線「蹴上駅」から徒歩約7分
 - 京都市バス「神宮道」または「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車、徒歩約10分
 - 京都市バス(京都岡崎ループ)「南禅寺・疏水記念館・動物園東門前」下車、徒歩 約4分
 - タクシーJR「京都駅」より約20分
- ※駐車場はございません

—開場時間 ※最終入場は、開場時間の30分前まで。

4～9月	9:00～18:00
10～3月	9:00～17:00

—入場料

- 【繁忙期以外】 600円
【繁忙期】
A 900円 2023/4/1～9/24～30、5/1～31、9/24～30、10/15～21、11/1～5、12/1～3
B 1,100円 2023/11/6～26

※市内在住の70歳以上の方、障がい者手帳等保持者、未就学児は無料

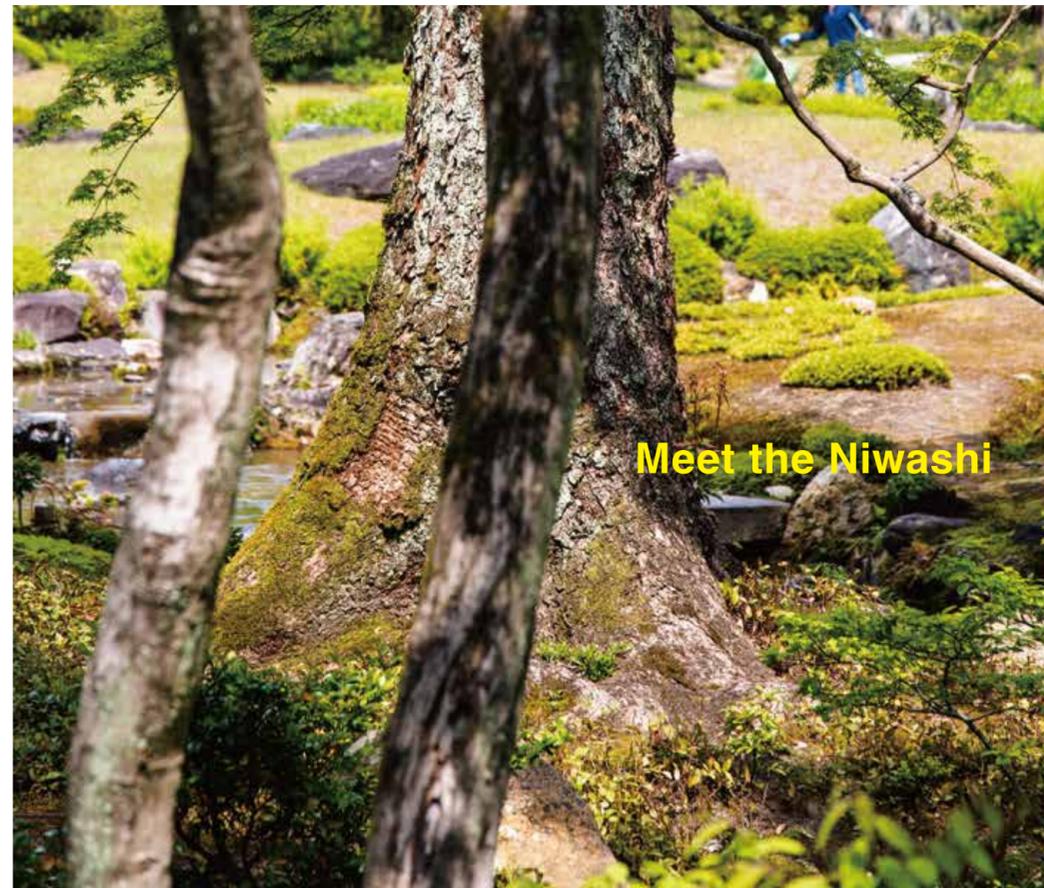
無鄰菴を将来にわたって長く維持・公開できるよう、京都市無鄰菴等条例の改正(令和4年3月公布)に基づき、令和5年4月1日より入場料に時期に応じた料金設定を取り入れることとなりました。ついては、本年4月1日以降の入場料は左記の通りとさせていただきます。何卒御理解をいただきますよう、よろしく申し上げます。

【条例に関するお問い合わせ窓口】
京都市文化市民局文化財保護課 075-222-3130

庭に集い、庭をほぐくむ
無鄰菴

2023 SPRING - SUMMER

さらさら通信



Meet the Niwashi

文化財の保存に貢献する活用に、無鄰菴はとりくみ続けます。

無鄰菴は、2016年度から文化財の保存に貢献する活用の取り組みを実施してきました。この取り組みでは、無鄰菴だけが持つ価値をわかりやすく伝え、もっと深く味わうために繰り返し訪れていただくことを目標としています。頻繁には足を運ぶことができない方々とも無鄰菴の日々の活動を共有したく、ここに「庭と庭園文化をはぐくむ」無鄰菴の取り組みをまとめました。これからも無鄰菴は庭をはぐくみ、様々な体験イベントや市民の皆さまにご参加頂く提案型ボランティア制度(フォスタリング・フェロー制度)などを続けます。ぜひ繰り返し訪れて、無鄰菴をお愉しみてください。また、すぐには足を運べないときも、無鄰菴を見守って頂ければ幸いです。

無鄰菴指定管理者 植彌加藤造園

無鄰菴では、このほかにも様々なイベントを実施しています。詳しくは無鄰菴WEBサイト、SNSをご確認ください！



夜間ライトアップ付き

プライベート利用 受付中

- ・時間：開場後～22時まで
- ・料金：30万円税込
- ・申込：ご利用日の1カ月前まで

あなたのお庭、無鄰菴。
ご予約はウェブで。



<https://murin-an.jp>



Meet the Niwashi

植彌加藤造園とポートランド日本庭園のオンライン交流会

無鄰菴の指定管理者である植彌加藤造園株式会社は、アメリカ合衆国オレゴン州にあるポートランド日本庭園と提携関係にあります。

アメリカ合衆国には多くの日本庭園があるとはいえ、日本と比較するとその数は少なく、日本庭園の管理に携わる人も多くはありません。ポートランド日本庭園では、ガーデナーのみなさんが他の日本庭園での庭園管理に関する情報を得たり、日本で庭園管理を担う職人（庭師）と話をする機会を設けることを希望されていました。そこで、庭園管理を主題として双方の交流を深める“Meet the Niwashi”（庭師に会いましょう）と名付けたオンライン交流会を行うこととしました。

“Meet the Niwashi”は、双方の職人同士の交流を深め、日本庭園を育む心を分かち合う目的で実施しています。2022年から取り組みはじめ、2022年中に2回実施しました。

本企画は毎回、以下のような流れで実施しています。

①交流会本番より数週間前までに、次回のテーマに沿って簡単な実演・解説を行ったショートビデオをポートランド日本庭園と共有する。

②その後、交流会本番までにポートランド日本庭園より、同じ技法の実演映像を送っていただく。植彌加藤造園側ではこれを事前に確認し、交流会当日に映像の内容をふまえて実演や詳しい解説を行う。

③交流会は、オンライン会議ツールを用いて実施。植彌加藤造園側は庭園で実演・解説を行う。

④実演に関する質疑応答のほか、最後に10-15分ほどの座談会を設け、双方の職人の同士で交流を図る。

初回の交流会では、マツの手入れのひとつである「芽摘み」をテーマとして取り上げました。マツの芽摘みは「緑摘み」とも呼ばれ、マツの新芽を手作業で折り取って枝の姿を整える作業です。

これをふまえて、11月に実施した2度目の交流会では、マツの「葉むしり」をテーマとしました。「葉むしり」は秋から冬にかけて行う管理作業で、古い葉



を手作業でむしり取ることで、マツの姿をすっきりと美しくします。また、風通しを良くして害虫を防ぎ、下方の枝の陽当たりを改善する効果もあります。マツの「芽摘み」と「葉むしり」は、いずれも京都の日本庭園においては特に重要なお手入れです。

交流会を開催した11月29日には、無鄰菴庭園の流れに差し掛かる大きなアカマツは、ちょうど古葉が色づいて葉むしりの適期となっていました。交流会では、無鄰菴の現場主任である出口健太がこの木の枝を軽く揺さぶり、松葉が自ずから落ちる様子を披露してから、この時期に作業を行う理由をご説明しました。色づいた古葉は昨年のものであり、放っておいても自然に落ちるのですが、あえて人が手を入れることによって早く、均一に樹木の姿を整えます。

このアプローチが分かりやすかったようで、ポートランド日本庭園の職人たちからも積極的に質問や意見があり、交流会が盛り上がりました。古葉が色づく現象を見たことがないという意見から、古葉

の色づきかたにも樹木1本1本の個性があり、色づきやすい個体、色づきにくい個体があることなどが話題に上りました。マツの種類や環境の違いによって、樹木の反応が異なるという認識を改めて確認することができ、話題は近年の温暖化の影響にも及びました。

この取り組みは、植彌加藤造園の職人にとっても日本以外の環境で日本庭園を管理する職人の視点や意見を学び、京都の職人にとっては何の変哲もない事柄の特殊性や、その尊さを認識する機会となっています。また、他者へ伝えることによって作業の概念や意が整理され、新たな気づきを得ることができます。

日本庭園をはぐくむこと。また、そのための技術をはぐくみ、伝え、守ること。

“Meet the Niwashi”は、これらを実現するための取組のひとつとして、新たに歩み始めたところです。

EVENT REPORT

実施日：2022年9月29日(木)

京都工芸繊維大学 KYOTO Design Lab × 無鄰菴

見えない人と見える人がともに体験するガイド

未知の庭

協力：
京都工芸繊維大学 KYOTO Design Lab
京都国立近代美術館

日本庭園は見て楽しむもの。一般には、そのように捉えられることが多いでしょう。

しかし、無鄰菴ができた明治時代の後半、日本庭園では五感で感じる新たなデザインが生みだされました。無鄰菴の流れには、躍動的な水音を感じられるよう数か所の「瀨落ち」が設けられています。滝の手前で流れを渡る沢飛石はたいへん低く据えられており、水の上を歩くかのように。庭園内で、水をとっても近くに感じることができます。

このほかにも風吹き渡る広い芝生の空間、そこにさすあたたかな陽の光、ざわめく常緑樹、なだらかな高低差を生かした園路など、視覚以外の方法で全身で庭を感じるための工夫に満ちています。

無鄰菴では、京都工芸繊維大学 KYOTO Design Lab と共同で、視覚に障害がある方にも無鄰菴を感じ、楽しんでいただけるイベント「未知の庭」を企画しました。

2022年9月29日の開催は、同年5月に続いて2回目。



当日は KYOTO Design Lab 作成の立体模型に加え、平面図も用いて庭園の構成についてご説明しました。また、苔や石を触っていただきながら庭園内の要素についてもお話しし、歴史的背景などもご理解いただいたうえでお庭をご案内。

参加者の方と、手引きの研修を受けた無鄰菴フォスターリングフェロー（ボランティアスタッフ）の二人で一組になっていただき、庭園内を一周しました。庭園内の苔の多様性や、庭園内への導水、樹木に生えた着生した植物の存在など、短い時間で非常に多くの発見・気づきがありました。

庭園散策の途中では茶室に入り、床の間や床前座がどのように配置されているのか、床柱などに触れて茶室内部の雰囲気を感じ、お抹茶も召し上がっていただきました。

晴眼者にとっても、日本庭園の楽しみ方は「見る」ことだけではありません。

鳥の声や風の音に耳を傾け、花や草木の香りに季節を感じる。お茶を頂きながら、ゆったりとした時間を過ごすこと。

無鄰菴では、より多くの方に日本庭園の魅力を感じていただけるよう、新しい楽しみ方や魅力をお伝えする方法を引き続き模索しています。

*「未知の庭」は、2023年度も実施予定です。